

2017年6月27日

## 2017年度 第6回Jリーグ理事会定時会見 発言録

2017年6月27日(木)17:30~18:00

### 【司会より】

#### 決議事項

##### 1. 実行委員選任の件(熊本)

熊本の実行委員について、池谷友良氏から永田求氏への変更を承認した。池谷氏が監督へ就任したため、代表取締役解任を受けての変更となる。

##### 2. 2018年以降のJ1・J2昇降格決定方法の件

実行委員会、理事会で協議・審議してきたが、本日変更することを決定した。

現行は、J1下位3チームがJ2へ自動降格し、J2は1、2位が自動昇格、3~6位が昇格プレーオフを行い、勝利をした1クラブが昇格という形を取っている。

新方式は、J2の1位、2位の自動昇格は変更なし。J2の3~6位を対象に昇格プレーオフとして実施していたものを、4チームのノックアウト方式とし、さらにJ1の16位と1試合制で試合を行う内容に変更した。仮称で「J1参入プレーオフ」とする。変更は2018年からで、2017シーズンは従来通りの方法で昇降格を決定する。なお、競技方式の詳細は、次シーズンに向けた各種詳細の決定のタイミングで改めてご案内する。

##### 3. ホームタウン追加の件(盛岡)

グルージャ盛岡の北上市をホームタウンとして追加することを承認した。グルージャ盛岡は全県ホームタウン化を各自治体と調整をしているが、北上市でホームゲームを行なうことが承認されたことから、先行して北上市をホームタウンに追加することが承認された。

#### 報告事項

##### 1. 第25回Jリーグユース選手権大会 大会概要および組み合わせの件

配布資料を参照。抽選の結果は資料2枚目のとおりとなり、10月より開幕する。決勝戦は11月1日に長野Uスタで行う。

##### 2. 後援名義申請の件

- ① スペシャルオリンピックス日本 2017年第2回全国ユニファイドサッカー大会
- ② かんきょうみらいカップ 2017 サッカー部門
- ③ 2017 サンフレッチェ Summer カップ(U-15、U-12)
- ④ 日本クラブユースサッカー選手権 U-18/U-15

⑤JCY インターシティカップ EAST/WEST

⑥メニコンカップ 2017 日本クラブユース東西対抗戦

以上、6件の後援名義申請を承認した。

#### 【村井チェアマン】

決議事項、報告事項は村山からの話のとおりとなる。質疑をお受けする。

このあと、本議案にないことを私の方からお伝える。

#### 【質疑応答】

Q: J1・J2昇降格決定方法において、今回導入する背景と、一番の理由を教えてください

A: 村井チェアマン

本件は、いくつかの観点から協議を行なった。将来的なJリーグの構造、J1、J2、J3リーグは各何チームがいいのか。まだ決議に至っていないが、将来の構想を議論した。

今、J3がJリーグのセーフティーネットの役割を担い、そこから下に降格することがないということを前提にして、Jクラブが14クラブ、U-23 が3クラブ参戦している。降格がないJ3という位置づけをどこまで維持するか、J3を中心に議論した。

ここからの情報は、あくまで決議前の議論のプロセスとしてご理解いただきたいのだが、J3から下に降格がないとすると、J3を東西分割などいくつかに分けて、全国リーグではなくブロックの構造にしていこうという考え方がある一方で、JFLという全国リーグからJリーグに上がった以上、全国リーグでありたいという考えもある。後者の全国リーグであることを選択した場合は、年間で試合ができる物理的なチーム数の上限が出てくる。

今、J3の一つの目安は 20 チームを上限として、上限に達する際にはJFLへの降格を視野に入れて、全国リーグを維持していくか、東西などに分割して、当面も引き続きセーフティーネットのような位置づけで、チーム数を拡大していくのかという大きな議論で言えば、J3実行委員からは、「降格があっても、J3は全国リーグで、20 クラブをキャップする」という方向で、大方のコンセンサスを得ている。そうすると、J1が 18 クラブ、J2が 22 クラブ、J3が 20 クラブと見た時に、現状では、J1とJ2の間が自動昇降格が3クラブ。仮にJ3が 20 クラブまでいったら、現在のJ2とJ3の間の昇降格が2クラブというのが、カテゴリー間の昇降格の機会均等、公平性があるのかどうか。細かく数字を分析していくと、「落ちにくくて上がりやすいJ2が有利」ということが議論になった。

今回、そうした議論の流れを踏まえつつ、さらに世界各国のリーグの昇降格数を参考にしたり、過去、(J2から)3枠目でJ1に上がったチームがJ1に定着できているかどうか、J1を 16 位で降格したチームがどういった形でJ1復帰を果たしたのか、といった競技成績上の過去の統計データを見たりしながら、総合的な指標や各データを参考にしながら、18 年以降の「J1 参入プレーオフ(仮称)の導入」について最終判断をした。

《資料参照について、フットボール本部長・黒田より補足》

上の図がJ2で下の図がJ1。

J2の方は、3 枠目で昇格したクラブが翌年J1でどのような成績だったのかを、2010 年から 16 年の成績に基づきまとめている。残留ラインからは勝ち点差をつけられて1年でJ2に戻ったクラブが多いことがわかった。一方でJ1の図では、J1で 16 位は翌年J2でどのような成績を残したのかということをもとめており、16 位で降格した際の、翌年のJ2は、多くの年で実力差を付けてJ1に復帰をしていることがわかった。

《村井チェアマン》

結果論として、こうしたファクトを参考にしながら、全体の昇降格のカテゴリー間でのバランスや公平感など、様々な要素を加味して判断させていただいた。

第 6 回理事会 決議事項・報告事項に関する質疑応答は以上

**〔村井チェアマン〕**

本日は皆様には、大変残念な報告をしなければならない。お手元に「役員の退任について」というリリースをお配りした。この件で、私の方からお詫びとご報告をさせていただきたい。

公益社団法人日本プロサッカーリーグは、本日付で中西大介常務理事が退任したことをお知らせする。中西常務理事は、Jリーグ内においてパワーハラスメントおよびセクシャルハラスメントというように解される不適切な言動が認められたことから、本日本人から辞任の申し出があり、理事会として受理をした。

私の方から補足をさせていただく。中西大介常務理事は、2016 年にJリーグの業務時間内に高頻度で業務に関係のない電話を掛けたり、当該職員に好意を抱いているようなことが伺える内容のメールの送信をして、映画、美術館、コンサート、食事などへの誘いを行った。

また、執務時間中の職場内外において、2015 年頃から 2016 年頃に、一般的な女性感情の基準において不快感を持つ行為を行ったことが報告された。

Jリーグにあるハラスメントのホットラインに通報があり、担当の弁護士が事実確認を行い、被害者とされる職員と複数の職員、中西本人にも事実確認をした上で、正式な報告がなされた次第。

中西自身は、本件に関しては、こういう行為を行ったことに関して深く反省をしており、自ら辞任の申し出を行った。中西は私の直属の役員といえる。私の管理不行き届きや管理責任が問われる事案だと認識している。私自身についても、理事会に報酬の一部返上を申し出、受理された。

Jクラブに対しても模範を示すべき存在であるJリーグが、社内のマネジメントにおいて、経営の指導に当たるべき立場の人間が、こうした大変申し訳ない行為をしてしまったことに対し、皆様にお詫び

したい。ファン・サポーターの皆様、Jクラブ関係者、メディア、数多くの関係者の皆様に大変不快な思いをさせてしまったことを、本当に申し訳なく思っている。本当に申し訳ありませんでした。

本件、理事会では、ほぼ全員の理事から、事実確認や私自身のスタンスの確認があった。あつてはならないことなのはもちろん、Jリーグそのものが夢や感動を与える、日本の中でも、そしてスポーツ界の中でも使命を担う立場にありながら、こういうことがあった。理事会においても、二度と起こさないようにとご指摘をいただいている。今後、再発防止に向けて全力で取り組んでいく所存である。私の方から報告は以上です。

#### 【質疑応答】

Q:村井チェアマンが返上する報酬の内容は。またパワハラの対象となったのはセクハラを受けた方と同じ方か、また複数か。中西常務理事はJリーグに籍はなくなるのか。

A:村井チェアマン

私自身の報酬返上については、3カ月にわたり報酬の10%を返上する旨で理事会決議を受けた。セクハラ、パワハラの内容についてだが、皆様にご理解いただきたいのは、二次被害を防ぐことや、職員のプライバシーや人格を守るために、理事会の中でもギリギリいえることを申し上げた。そのため、詳細は、これ以上申し上げることはできない。

パワハラ、セクハラのご概念については、パワハラは常務理事の立場にある人間が、特定の人、複数いますが、誘いに呼び出すことは、立場や地位を利用したことになり、パワハラのご概念にあたるという認識である。そして、職場の内外において、女性が不快に思う言動、言葉や態度をとることは、セクハラにあたるという認識である。

中西の辞任が本日付で受理されたので、Jリーグ、関連する会社、いくつかの委員会等をすべて退任する。

Q:被害者とされる方は、これから裁判をするなどの可能性はあるのか。

A:村井チェアマン

本件は、私自身が管理責任を問われる事案であるため、両者の言い分を聞くことは、社外の弁護士の先生をお願いした。今日現在、刑訴に関連することは聞いていない。将来のことについては、私の今の情報ではお伝えすることはできない。

Q:本人は理事会の場で深く反省するとおっしゃったのか。理事会の中でどんなやり取りがあったのか。今後の再発防止について、詳しくお聞かせいただきたい。

A:村井チェアマン

本日の理事会には中西は欠席している。弁護士からお伝えいただいた。弁護士からも、反省しているということを聞いている。昨日、本人から私は理事会宛の辞表を受け取った。本人は深く反省していた。

再発防止等については、今後詳細を詰めていくが、Jリーグとしてはセクハラ、パワハラを含むハラス

メントの研修や、思い当たることはあるか、といったアンケートをとること、研修・啓発を行っていた。まずは今回の総括をきっちりすることから始めたい。今までは、公益Jリーグを対象に行ってきたが、Jリーグの事業会社を再編に伴い、グループ全体、特に管理職中心に全社を挙げて研修を徹底していきたい。

研修だけではなく、日常で不快なものを見たり聞いたりしたときに、立場が上の者には言いにくいことは世の常だと思うが、風通しが良くなれば縦・横・斜めにコミュニケーションが発生するものだと思う。組織風土そのものに問題があるのであれば、ハラスメントだけでなく、オープンで風通しが良い職場に変えていく必要があると思っている。今回たまたま、風土改革のための社内改革プロジェクトを、外部の識者を招へいして進めていた。職場風土の改善から着手していきたいと考えている。

Q:事実関係の確認だが、ホットラインへの通報があったことをリーグとして把握したのがいつか、2015年のいつごろからハラスメントがあったと把握しているか。

A:村井チェアマン

事案の詳細については、私からお伝えできる内容は、先ほどお話しした内容となる。

いつ確認したかについて。正式に弁護士に来ていただき、文書により事案の報告として先生から書簡をいただいたのは本日である。ホットラインへの通報は、正確な日付はわかりませんが、このような通報があると把握したのは1週間、2週間程度前だったと思う。その時、私自身も管理責任を問われる事案なので、「今回の調査を私が指揮するのは不適切だと思う。私に報告は必要ないので、先生の方で必要だと思う調査に従業員に対してしていただければと思う。」とお伝えした。詳細について把握したのは直近とご理解いただければと思う。

被害、加害が2015～2016年と申し上げたが、それ以上は、被害者を特定してしまう可能性があるのご容赦いただきたい。

Q:ホットラインに通報されたのは、ハラスメントを受けた本人だったのか。

A:村井チェアマン

当事者である方からの内容とご理解いただいてもよいと思われる。特定されてしまう可能性があることなのでこれ以上は控えさせていただきます。

Q:中西常務自身は幅広く重要な仕事を担当されていたと思うが、後任についてどうお考えか。

A:村井チェアマン

後任については、これからとなる。残った人間でシェアをしていくしかないと思っている。

Q:辞任ということだが、解雇という形にはならなかったのか。

A:村井チェアマン

従業員の雇用契約ではないので、雇用契約を解除する解雇という概念は理事にはない。理事としての辞任届を受理するか、もしくは解任ということがあるが、本日の理事会上では、辞任を受理す

るという形で決議された。解任という手続きは、総会に諮る手続きになる。今回の事案については、法務委員の先生や今回調査いただいた弁護士の助言に基づき、理事会を通して辞任を受理するという形となった。

Q:調査にあたった人数は。また中西常務自身のJリーグとしての序列は。

A:村井チェアマン

調査にあたったのは2名。序列があるとすれば、チェアマン、原副理事長、中西常務理事、木下理事の4名で(常任の役員)をしているので、上から言うと3番目ということになる。

Q:再発防止は徹底的に行っていくと思うが、解任ではなく辞任ということで、今後中西常務がJリーグ関連の仕事をする可能性はあるのか。関連会社はじめ、関係のある団体で仕事をする可能性はJリーグとしてどのように考えているか。

A:村井チェアマン

将来のことは今は申し上げられないが、現時点では事の重要性に鑑みて、本人からも本当に反省をしているということで辞任届が出された。また理事会の総意として、「こういうことはあってはならないし、こういうことを曖昧にしてはいけない」としっかりと社会に伝えることをしていこうと覚悟したつもりである。

本人が、非常に重い責任を感じた身の引き方だったと私は理解している。その上で、今後、彼にサッカー関係やJリーグ関係の仕事を発注するかどうかは、将来、本人がどうやって今回の件を改めるかによるし、当然私は彼というよりは被害にあった従業員やいろいろな人たちを守る立場にあるので、彼らの心情に鑑みた時に、慎重でないといけないと思っている。いずれにしても、将来のことを今、申し上げることはできない。

Q:実際に被害の受けた方は男性も女性もいらっしゃると思うが、Jリーグで今も働いていて、いろいろな関係各社と接する機会があると思われるなかで、その接する会社に中西常務がいれば、顔を合わせたり、その会社にいるという情報が間接的にでも伝われば、その従業員の方は苦しい思いをされるかもしれないと思う。そうしたことに関して、どのように考えているか。

A:村井チェアマン

十分配慮していかないといけないことである。本来、辞職をしたとしても、被害に遭われた人たちが受け入れてくれるならば、本人からしっかりと詫げる必要もある。わだかまりを誠意ある対応でケアしないといけないし、そうしたことを本人に求めていく可能性はある。一方で、将来にわたって従業員の立場を守り、心情をケアしていかなければならないと強く思っている。

Q:約2週間前にチェアマンが把握されてから、中西常務を自宅待機にするなど動きはあったのか。

A:村井チェアマン

先ほど申し上げたように、弁護士から正式な報告を受けたのは本日で、理事会での審議の状況がわからなかったため、通常業務をお願いしていた。私自身も、本人へ特別な対応や情報提供はしていない。

最後になるが、重ねて今回のことをお詫び申し上げるとともに、Jリーグの組織風土を全力で改革、改善していく所存である。

以上